

## <寄稿要項>読書について思うところ(読書・映画・音楽)

著者	志賀浪 幸子
雑誌名	日本文学誌要
巻	54
ページ	125-125
発行年	1996-07-13
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/00019921">http://hdl.handle.net/10114/00019921</a>

## 文学に触れたこと

——我がサークル活動記

松本 京久

大体からしていい加減な性格の私を部長に  
してしまうようなサークルだからその積りで  
運営しても間違いは無かったのだろうが、い  
い加減な性格の持ち主のよくある例にもれ  
ず、私もまた計画だけは豊富に持ち併せてい  
た。多くは中途にして挫折してしまっただが、  
可成り納得出来るまで実現したものもある。

そもそも私のサークルはOBに本学の杉本  
先生や勝又先生もいる伝統ある文学サークル  
で、毎年恒例で大学祭に於る講演会を主催し  
てきた。昨年度は、御存知の方もいるだろう  
が、ドナルド・キーン先生をお招きした。処々  
不備な点や段取りの悪さも目に付いたが、自  
分ではその納得出来るものの一つに数えてい  
る。

併し、正直なことを言えば、かねてより、  
愛していた文学者に直接会うことが出来た、  
という個人的なうれしさがあつたことを白状  
しなければならぬかも知れない。我々部員

は、講演後ささやかながらも酒肴を用意し、  
キーン先生をお招きしたが、その時にお話し  
下さった先生のかつてのお友達、我々にとつ  
ては伝説上の作家達のことは特に印象深く心  
に残っている。併しそれ以上に思い出される  
のはキーン先生の物静かな、一つ一つ言葉を  
選ぶ様にしてお話しされる姿だった。

実は昨年度の講演会に就ては或る裏話があ  
る。キーン先生に講師をお願いする前に、批  
評家の佐伯彰一先生にお願いして断りのお手  
紙を頂いたという経過があつた。その時頂い  
たお手紙も非常に丁寧だったが、その後キー  
ン先生にお引き受け頂いた旨改めてお報らせ  
すると、驚いたことにさらにまたお返事を頂  
いた。「キーンさんが引き受けてくれて良かつ  
た。」それだけだったが、私は感動し、次にう  
なつてしまった。キーン先生にしても、佐伯  
先生にしても、一流というものに触れた思い  
であつた。

兎にも角にもこうした文学の現場の生の空  
気を直に感じる機会があつたことは幸運であ  
つた。サークルでこういう経験が出来るのも  
大学生活の醍醐味であろう。

(4年C組)

## 読書について

思うところ

志賀浪 幸子

——東京はすごい処だ。

大学受験を終えた後、私が風邪の熱で重た  
くなった体を引きずりながら早稲田の古本屋  
街を歩きながら思つた一言だ。

それからひと月後。私は神保町の古本屋街  
に先輩に連れていかれて、またもやひと月前  
と同じ言葉を先輩に向かって発することにな  
つた。

本を読むということは単に知識を得るとか  
教訓を得るとか、そうしたもののだけで捉えら  
がらだが、決してそういうことだけではない  
だろう。一冊、一冊の本は当然のことかもしれ  
ないがたくさんの顔を持っている。その中  
身を書いた著者の顔、装幀者の顔、古本や図  
書館の本ならば今まで頁を繰った人々の顔。  
そしてそれを自分が手に取ることによって、  
また新しい顔が生まれる……などと書く  
と少々気味の悪い思いがするかもしれないが、  
それを出会い、と考えてみれば、それもまた  
楽しい想像である。

(2年F組)